

授業協議会記録4年 「もののかさと力」

授業者 浅山 景

協議題

「思考を言語化しイメージ図に表すことは思考力・表現力を高めるために有効であったか。」

1 グループ

- イメージ図の活用により、子どもの考えがとらえやすく、子どもの思考の深まりもあってよかった。
- 他教科との関連がありよかった。
- 「押し返す力」「もとに戻る力」の授業者のこだわりが難しい。
- 粒子モデル、キャラクターの考えは違う。練り上げる場面や違いをとりあげて検討する場面があってもいいのではないか。

2 グループ

- イメージ図をかく姿から、思考力を働かせている様子がうかがえた。
- 学習内容をしっかりおさえる授業をしていた。自分の考えを表現するために、思考力を働かせていた。
- 思考力を働かせながらたくさんのイメージが出ていたので、かく活動は有効だったと感じた。
- 目に見えない物を見えるようにすることに、イメージ図のよさがある。
- モデル図をもう少し限定しないと、同じ土俵にのぼっての話し合いにならないので、思考が深まらないと思う。表現力・思考力をつければよいのではなく、その先に理科学習のめあてをおさえることが大事なのではないか。
- 自分の考えを発表する子どもが限られていたので、ペアで自分の考えを発表する時間があってもよかったのではないか。話すことで自分の思考を整理する・訂正することができるのではないか。

3 グループ

- イメージ図に表すことは、思考力向上に有効だった。
- 書く活動で、話型が用意されていてよかった。
- ワークテストでは、理科的な言葉が求められている。情緒的な表現を一般化する必要が

あるのではないか。理科学習と言語活動のバランスを考えさせられた。

■国語なのか、理科なのか疑問だった。

4 グループ

□イメージ図は、自分の考えをまとめるのに有効である。絵が先か、文が先かは、子どもたちなりの試行錯誤でよいと思った。

□書く力、図に表す力がある。

■子ども同士が考えを伝えてからませるなど、かかわり合う場面を多くもつとよいのではないか。

■表現力と思考力を重視するあまり、理科離れしていないか。実験が見たいと思った。

5 グループ

□子どもたちはよく鍛えられていた。

□話型やキーワードはよかった。

■図と文を常にセットにする必要はないと思う。

■自分なりのイメージで何を伝えたいか、となり同士で発表し合うなど、達成感をもたせればよかった。科学的な1時間だった。

■指導案に新井小独自のものがあるとよい。

6 グループ

■グループで話し合う活動や、自由に体験や実験ができる体験コーナーなどを設けて、子ども同士のかかわりあいをもっと増やすとよい。

■前時に子どもたちがどういった問題意識をもって本時に向かっているか、子どもたちの思考の流れがスムーズになるように授業をつくってほしい。

■子ども自身にモデル図のどこに着目していたのか発表させると、子どもの思考がもっと表現されたのではないか。

7 グループ

□子どもの聞く姿勢が素晴らしい。

□イメージ図は、表現としてよい。今後の科学的な思考に進むべき要素がたくさん含まれている。

□表現力は備わったと思われる。

■科学的思考としての深まりはなかったのではないか。

■押し返す理由は難しかったのではないか。